

今年2月に82歳で亡くなった元衆院議長、元北海道知事の横路孝弘氏のお別れの会が、5月21日、京王プラザホテル札幌で開催、約1000人が最後の別れを惜しんだ。横路氏の「影のブレイン」として活躍した松本収氏に寄稿してもらった。

「あの頃が一番楽しかった」 未来を語り合った40年前



▶政界引退、後継者発表時の横路孝弘氏（2016年5月28日日本誌撮影）

昨年11月末に、東京で横路さんとお会いする機会があった。彼の体調があまり芳しくないとの報を受けて、敢えて会いたいと思い、その約束を取り付けるときの、電話の向こうから聞こえてくる横路さんの声にはまだ張りがあり、とても病に迫られているといった様子は感じられなかった。

私は、他の用事と兼ね合わせて上京し、彼と二人でお会いすることになった。落ち着いたところで話をする

ならホテルのレストランがよいだろうと、四谷の小さなホテルで16時に落ち合う約束をした。16時きっかりに横路夫妻がホテルのフロントドアを開けて入ってくるのが見えた。私は、一瞬、躊躇に似た感情に襲われていた。というのも、夫人が先に進み、横路さんがその後からやって来たのだが、彼は両脇に杖をつきながら、一步一步、足を前に進めるようにして入ってきたからだ。その頭も白髪に覆われていた。

考えてみれば、もう10年近くもお互いに会っていなかったから、ともに年寄りになっているのは当然のことだが、その様子に私は戸惑いを感じていたのだ。「あらっ、松本さん、ずいぶんお久しぶりね。どれくらい会っていないかったのでしょうか」

夫人の飾らない声と些細な会話が、私を落着かせた。それから私は、横路さんにまたこうしてお会いできたことをとても嬉

しく思っていますと挨拶をした。

* * *

横路さんは、自分は今、回顧録を作成中で、3人の学者から毎月ヒアリングを受けているとのこと。そのヒアリングを基に資料を集めてまとめていく作業が進行しているといった話や、横路家の家系にまで遡って調べており、自分でも知らなかったこともあったなど、もう2年半ほどこうした状態が続いていて、おそらく年内にもヒアリングを終わらせることになりそうだとも言っていた。

そして突然、思い出したように「あの頃が一番楽しかったな」と言った。北海道知事時代が一番良かったというのだ。横路さんの話では、知事時代に全道各地をくまなく巡り回って、地域の若者たちと北海道の現在と未来を語り合ったことが今でも財産になっているというのだ。「あの頃、みんな、本当に北海道が変わると思っていた。その



1951年芽室町出身。北大経済学部卒。北海道地域総合研究所事務局長などを経て96年9月の民主党立党後、民主党政策調査会事務局長、民主党代表室室長。その後仙谷由人事務所政策秘書などを経てヌサンタラ総合研究所顧問。

政策アナ 松本 収

勢いがあった」

というのだ。こんな会話を続けているうちに、今度は民主党立ち上げの頃の話に移っていた。

私は、まだ北海道知事を務めていた横路さんよりも1年ほど早く上京して、やがて彼が立ち上げることになる新党、つまり第一次民主党の立ち上げの準備活動を始めていた。それからおよそ3年が経って、横路さんは再び衆議院議員に復帰することになる。

……そんなやり取りをしているところへ夫人が部屋に戻ってきて、

「もうそろそろにしたらいいんじゃないの」と声を掛けた。横路さんの身

体を気遣つての言葉だった。

「まだ少し時間があるだろう。今日は久しぶりに運動をしたような気分だ」

横路さんは、私との会話を十分に楽しんだというように笑顔を見せた。

それが、横路さんとお会いした最後だった。

* * *

横路さんとは、最後の面談まで数えると40年ほどの付き合いとなる。大切な人を失うことは実に寂しいものだ。そのたびに私の胸の中で走馬灯のように様々な記憶が甦り、通り去っていく。

私が横路さんを初めて知ることになるのは、1982（昭和57）年11月3日。この日はとて

も暗れていて、この時節としてはとても暖かい日であったと記憶している。

札幌の中心部にあるプリンスホテルの大きな会場で、大勢の人たちに囲まれながら、横路さんが翌年の北海道知事選挙に立候補する「出馬宣言」を行ったのだ。

その出馬表明「いま、新・開拓時代」も、なかなか洗練された内容で、とても新鮮で、聞く者たちの想像力をかき立てる見事なものだった。

以来、四半世紀ほど、私は横路さんの演説原稿のゴーストライターのような仕事を続けることになった。

横路さんは表裏なく、この北海道を変えようと、生真面目なほどに北海道のことを思い続けていたことだけは確かであった。それが、あの最後の言葉「あの頃が一番楽しかったな」となって残されたのだらうと思っ



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)